

文部科学省実施 令和7年度 教師の英語力・指導力の向上のための 実践的オンライン研修 (中・高等学校教師プログラム) 実施案内

Online course for Teaching English(略称：OTE)は、日本の中・高の英語教師の現状やニーズを踏まえて開発されたコースです。研修を通して、言語活動を通じた指導についての効果的な技術を習得し、授業改善を確実に進めます。

■研修の特徴

- ・発信力の強化、特に「話すこと(やり取り)」の指導に焦点を当てた10時間のコース。
- ・ライブで実施するワークショップ(同時双方向型)で、デモ授業を体験。実際のコミュニケーションの過程で必要な様々な指導上の配慮(支援)の具体的・実践的な例を知る。
- ・セルフアクセス(eラーニング)8時間を通して、指導における第二言語習得、動機付け、学習科学などの最新の科学的根拠に基づいた効果的な指導法と、その指導を行うべき理由や効果への理解を深める。
- ・研修で学んだ具体的・実践的な指導技術を実際に行う「事後タスク」に取り組むことで、授業改善を進め、受講者の指導に対する自信をより高め、生徒の英語力の向上につなげる。
- ・いずれのコースも実践的な英語指導の国際資格と日本での豊富な教員研修経験を持つ講師が担当。

★概要

会 期	【中 学 校】令和7年7月～12月(期間中10時間程度) 【高等学校】令和7年6月～12月(期間中10時間程度)
会 場	オンライン研修
募集人員	70名 <内訳：中学校20名、高等学校50名>
申込締切	4月30日(水) メールまたはFAX 必着
参加対象	都道府県私学協会加盟の私立中学校、高等学校、中等教育学校の英語科教員 (今年度、当該校種の授業を担当している教員)
受 託 先	ブリティッシュ・カウンシル
参 加 費	無料 ※オンライン研修に必要なPC等をご自身でご用意ください。
注意事項	本研修は無料のオンライン研修ですが、原則として途中辞退は認められません。 約10時間のコースを最後まで修了できる方のみお申込下さい。

<受講要件>

- ・本研修を受講することを通して、授業等の改善に積極的・継続的に取り組む意欲が高いこと。
- ・研修で課された課題(事後タスクや意識調査など)に必ず取り組むこと。
- ・研修で得た知識や技術を、日常の授業で実践すること。
- ・研修で必要とされるICT環境を整えることができ、必要な連絡・対応を遅滞なく行うことができること。
- ・研修受講のスケジュール計画や時間調整など責任をもって行うこと。
- ・受講者の英語力の指定は行いません。
- ・(所属長)受講者が研修に専念するため、適切な受講環境、研修時間の確保及び課題に取り組む環境などを整えること。
- ・(所属長)受講者の受講状況を把握し、受講が進んでいない場合は、研修受講修了に向けて支援を行うこと。

一般財団法人日本私学教育研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル6階

電話：03(3222)1621 FAX：03(3222)1683 ホームページ：<https://www.shigaku.or.jp/>



★研修内容★

【中学校】

<モジュール1>

ライブ(ワークショップ)で、「スモールトーク」の進め方や指導技術を紹介し、オンラインで実施するデモ授業への参加、指導技術のマイクロティーチング(模擬授業)を通して、「即興で伝え合う」「対話を継続する」等について具体的な指導技術を知り、授業実践に向けて自信を高めます。

※以降はセルフアクセス(eラーニング)

<モジュール2>

【スピーキング指導】「話すこと」、特にやり取り指導を効果的に進めるための理論、生徒を上達に導く評価等を扱います。

<モジュール3>

【語彙指導】スピーキング力を高めていくには、生徒の語彙力の充実が必要になります。生徒の記憶に残る新出語彙の導入の方法、既習語彙を繰り返し扱うことや使う練習をする際の留意事項等を紹介し、

<モジュール4>

【書くことの指導】すべての生徒が自分の意見や経験を表現し、課題を完了できるようにするための支援の具体例や評価等を扱います。

【高等学校】

<モジュール1>

ライブ(ワークショップ)で、「読むこと」と「話すこと」の技能統合型の指導のデモ授業と分析を行います。受講者の興味関心に基づき、次のいずれかを選択します。

- ・Aコース：生徒の英語力を伸ばすこと(イメージ：CEFR A1 や、A2 の生徒の力を伸ばす)
- ・Bコース：特にグローバルに活躍することが期待される層の英語力を伸ばすこと(イメージ：CEFR B1 以上を目指す生徒の力を伸ばす)

※以降はセルフアクセス(eラーニング)

<モジュール2>

【やり取りの指導】「話すこと」、特にやり取り指導を効果的に進めるための理論や、生徒を上達に導く評価、技能統合型の指導等を扱います。

<モジュール3>

【語彙指導】言語学習の根幹である語彙の学習方略や生徒の長期記憶に定着させるための支援について考えます。リーディングやリスニング中の語彙の扱いや、課題別に、学習過程のあらゆる段階で行う配慮等も扱います。

<モジュール4>

【書くことの指導】すべての生徒が自分の意見や経験を表現し、課題を完了できるようにするための支援、生徒を上達に導くための評価、まとまりのある文章を書くための支援等を紹介し、

★高校受講者(特にAコース)で、中学校の学び直しの内容を希望する者は、モジュール1受講後に、高校向けスモールトーク(中学校のモジュール1の難易度やテーマを調整した内容)を受講できます(任意参加。7/23-7/24 10-12時あるいは14-16時に実施)。

★受講形式★

中・高ともに、4つのユニットに分かれ、ライブ(ワークショップ)とセルフアクセス(eラーニング)の2種類で構成されます。

①モジュール1: ライブ(ワークショップ) 2時間

ZOOM を使って同時双方向で行う2時間程度のワークショップです。英語指導における実践的な国際資格を持ち、日本での教員研修が豊富な講師が担当します。

下記いずれかにご参加いただけます。各受講者の参加日時は、後日お知らせします。

(学校行事等により参加できない日に配慮し、個別に調整します。)

中学校 ①7月1日(火) 14時~16時 ②7月2日(水) 10時~12時 ③7月2日(水) 14時~16時
④7月3日(木) 10時~12時 ⑤7月3日(木) 14時~16時

高等学校

Aコース ①6月24日(火) 14時~16時 ②6月25日(水) 14時~16時 ③6月26日(木) 14時~16時
Bコース ①6月25日(水) 10時~12時 ②6月26日(木) 10時~12時

②モジュール2~4: セルフアクセス(eラーニング) 8時間

自分で学習時間を決めて進めるeラーニングコース(合計8時間)で、7~11月に自身のペースで取り組みます。都合の良いところで中断・再開できます。3ページに記載している時間数は目安です。

モジュール2-4は順番に進める必要があります。テキストや動画を交えた構成で、内容確認のため簡単なテストがあり、受講の順番は定められています(特定の内容を飛ばして進むことはできません)。各モジュール終了後に、授業実践としての「事後タスク」が設定されています(3ページ参照)。

★研修の流れ★

モジュール2～4の受講時期は目安として記載しています。12月末までにすべてのモジュール受講と授業実践(事後タスク)が完了するよう、各自の状況に合わせて学習と授業実践を計画してください。

	中学校	高等学校
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・受講決定者に受講案内を送付。(5/12以降 自治体等経由) ・受講者自身で受講登録を行ってください。(6/3 締切) ・意識調査(オンラインフォームで回答) 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講決定者に受講案内を送付。(5/12以降 自治体等経由) ・受講者自身で受講登録を行ってください。(6/3 締切) ・意識調査(オンラインフォームで回答)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者ヘラライブ(ワークショップ)参加日時をご連絡します(6/9頃) ・M1: Small Talk: Demonstration & Analysis (2時間) ※7/1、7/2、7/3 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者ヘラライブ(ワークショップ)参加日時をご連絡します(6/9頃) ・M1: Integrated skills lesson: Demonstration & Analysis (2時間) ※6/24、6/25、6/26
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・Aコース受講者の内、Small talk for SHSを希望する者(7/23-24実施)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・M2: Teaching interactive speaking (3時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・M2: Teaching interactive speaking (3時間)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・M 1: 事後タスク締切 ・M 3: Teaching and reviewing new words and phrases (3時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・M 1: 事後タスク締切 ・M 3: Helping students to remember and use new language (3時間)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・M 2: 事後タスク締切 ・M 4: Teaching writing (2時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・M 2: 事後タスク締切 ・M 4: Teaching writing (2時間)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・M 3 事後タスク締切 	<ul style="list-style-type: none"> ・M 3: 事後タスク締切
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・M 4 事後タスク締切 ・授業実践の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・M 4: 事後タスク締切 ・授業実践の振り返り

※上記は都合により変更となる場合があります。

★事後タスクについて★

各ユニットの受講後、研修で学習した指導技術等を活用して実際の授業で実践していただきます。授業実践後はその成果や課題をオンラインフォームで報告していただきます。オンラインフォームでの回答締切は、「研修の流れ」に示す月の中旬を予定しています。各ユニットで学習した指導技術等を、授業で継続的に活用することが大切です。

【事後タスク例】

<中学校：スモールトーク>

- ①ライブ(ワークショップ)では、スモールトークについて扱いました。あなたが教えている学年に合わせて次のテーマ(省略)から1つ選んでください。
- ②スモールトークを実施するための7つのステップ(ワークショップで紹介・練習済み)を参照し、授業でスモールトークを計画・実施してください。
- ③授業実践について、次の点を振り返り、オンラインフォームから回答してください。
 - ・ご自身の指導でうまく進んだ点はどんなところですか。・生徒の反応や様子を教えてください。
 - ・次回実践する際には、どのように行いたいと思いますか。

<高等学校：「書くこと」の指導>

- ①モジュール4で紹介した次の活動のどちらかを実践してください。
 - A. センテンスレベルのライティングタスク活動について、次の3つ(省略)から1つ選び、実践する。
 - B. まとまりのある文章を書くための、5つのプロセスを使ったライティング活動を行う。
- ②授業実践について、次の点を振り返り、オンラインフォームから回答してください。ご自身の指導でうまく進んだ点はどんなところですか。生徒の反応や様子を教えてください。次回実践する際には、どのように行いたいと思いますか。

申込締切日：4月30日(水) メールまたはFAX 必着

★参加申込み方法・受講開始までの流れ★

①「参加申込書」に必要事項をご記入の上、以下の申込先に記載のメールアドレスに添付(PDF)またはFAXでお送り下さい。

申込先	一般財団法人日本私学教育研究所 研修会担当 宛	
	メール	kenshukai@shigaku.or.jp ※参加申込書のPDFデータを添付の上、お送り下さい。 ※メールでお申し込みの際は、「件名」に「 文科省オンライン研修申込 」と記載して下さい。
	FAX	03-3222-1683

②【お申込から1週間以内】

当研究所より受付完了メールをお送りします。

1週間以上連絡が無い場合は電話にてお問い合わせください。

③【5月14日(水)頃～】

受講案内をメールで送付し、ライブ(ワークショップ)の参加日時をお知らせします。

④【中学校：7月】【高等学校：6月下旬】受講を開始してください。

★注意事項★

※申込者数が定員を超えた場合は、募集期間中でも締め切ります。

※受講に必要なPC・タブレット端末等をご自身でご用意ください。

※本研修では、受講の案内を全てメールで行います。お申込の際は普段使用しているメールアドレスを必ずご記入いただき、受講中は受信メールをご確認ください。

※本研修は無料のオンライン研修ですが、原則として途中辞退は認められません。

約10時間のコースを最後まで修了できる方のみお申込下さい。

※受講コースは中学校または高等学校を選択してください。

※高等学校を選択された方は、興味関心に基づいてAまたはBコースいずれかを選択してください。

高等学校の受講コースは、申込後の変更ができませんのでご注意ください。

Aコース：生徒の英語力を伸ばすこと(イメージ…CEFR A1やA2の生徒の力を伸ばす)

Bコース：特にグローバルに活躍することが期待される層の英語力を伸ばすこと

(イメージ…CEFR B1以上を目指す生徒の英語力を伸ばす)

★申込についてのお問い合わせ★

一般財団法人日本私学教育研究所 (担当：水澤、田淵)

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル6F

電話：03-3222-1621 FAX：03-3222-1683 E-MAIL：kenshukai@shigaku.or.jp

★企画運営(研修内容についてのお問い合わせ)★

本研修の企画開発及び運営は英国の公的な国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが担当します。当機関は、世界及び日本各地で英語指導・教員研修を実施しています。近年は全国の教育委員会からの委託研修や教材作成、カリキュラム開発等を行っています。令和6年度の本事業を担当しました。

ブリティッシュ・カウンシル <https://www.britishcouncil.jp/programmes/english-education>

お問い合わせ先 jp.training@britishcouncil.or.jp

文部科学省実施 令和7年度
教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修
(中・高等学校教師プログラム) 参加申込書

【申込締切日：4月30日(水)】

申込書 送付先	メール kenshukai@shigaku.or.jp (本申込書の PDF データを添付の上、お送り下さい。) FAX 03-3222-1683	※メールでお申込みの際は、「件名」に「文科省オンライン 研修申込」と記入して下さい。 ※FAXにてお申込みの際は、送信前にFAX番号をご確認 下さい。0(ゼロ)発信のFAX機で送信する場合は「0」を 押してから、FAX番号を押して下さい。
------------	---	---

		申込日	令和7年	月	日	
①学校名				②職名	(例：教諭、講師等)	
③学校住所	〒					
	電話番号		FAX			
④氏名	姓	カタカナ	(例：シガク)	名	カタカナ	(例：タロウ)
		漢字	(例：私学)		漢字	(例：太郎)
	Family Name	(例：Shigaku)	First Name	(例：Tarou)		
⑤メールアドレス		※今後の案内は全てメールで行います。必ずご記入下さい。				
⑥希望コース	※いずれかに必ず○を付けてください。 高等学校Aコース：生徒の英語力を伸ばす（イメージ…CEFR A1 や A2 の生徒の力を伸ばす） 高等学校Bコース：特にグローバルに活躍することが期待される層の英語力を伸ばす （イメージ…CEFR B1 以上を目指す生徒の英語力を伸ばす）					
	中学校 ・ 高等学校Aコース ・ 高等学校Bコース					
⑦本研修は無料のオンライン研修ですが、原則として途中辞退は認められません。 約10時間のコースを最後まで修了できる方のみお申込下さい。以下の枠内に✓を記入して下さい。						
令和7年 月 日						
<input type="checkbox"/> 注意事項を確認しました。最後まで研修に参加しコースを修了します。						
<input type="checkbox"/> 上記の申込を承認します。(承認後、左の□に✓を記入して下さい。)						
学校名 _____ 所属長名(職名・氏名) _____						
◎学校長の承認を得てからお申込み下さい。						
通信欄						
					受付番号	